



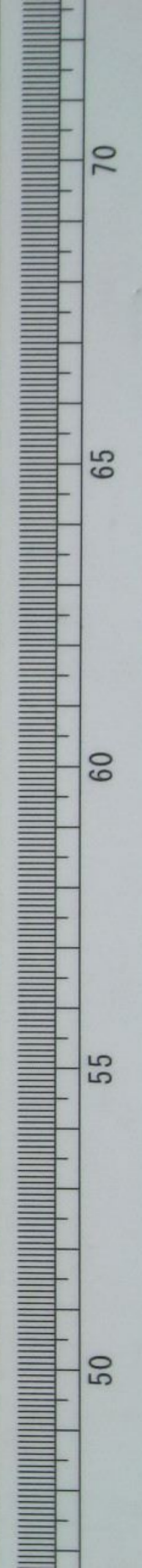
孫
補

洲家圖景大成

三

~~27
3~~

逍遙文庫
文庫 6
27
3



喜

頭書增補訓蒙圖彙卷之四

人物

此部小ハ士農工商その不ウ異朝乃國

公

○公ハ三公カクニ
太政大臣 左大臣
右大臣 ト三公ト云
内大臣 ト小公カク
唐名ハ大師 大傳大
保トシ小補圖カク
束帯ハ圖カク束
帶ハ小帶 劔カク是
公卿トモニ式禮乃
服カクツも靴カク
カクカクカク



頭書增補訓蒙圖彙卷之四

喜

○ 嬰あひ人始はじめてしむる
 乃すなはち嬰あひ兒こと云い胸むねの
 前まへと嬰あひと云いこゝと
 嬰あひ前まへと云いて乳ちち養やしやう
 と故ゆゑ小こ嬰あひと云いて
 嬰あひと云い男おとこと兒こと云い
 ○ 童わらわの男おとこ十五ごじゅう以下以下と
 童わらわ子このこ童わらわのわらわ獨ひとり
 多おほくり言いひま室むろ家か
 わらわらららりり鬚ひげ子こ
 總あたま角かどれ童わらわ子こ乃なり
 事ことから
 ○ 翁おきなの長なが老らうの稱なづかひ也なり
 又また人ひとの父ちちと稱なづかひ
 翁おきなと云い同おな



頁書曾補三式圖景表而

○ 女おんなのいいこ
 嫁よめと云いこ
 女おんなと云いひ
 と云いに嫁よめ
 女おんなのおんな嫁よめ
 と云い嫁よめと云いも
 父ちち母ははと云いんんど
 女おんなと云いんんど
 ○ 波なみ女おんなのおんな姫ひめ姫ひめ
 女おんなと云いんんど
 早はや婆ばと云いも
 早はや婆ばと云いも
 早はや婆ばと云いも



頁書曾補三式圖景表而

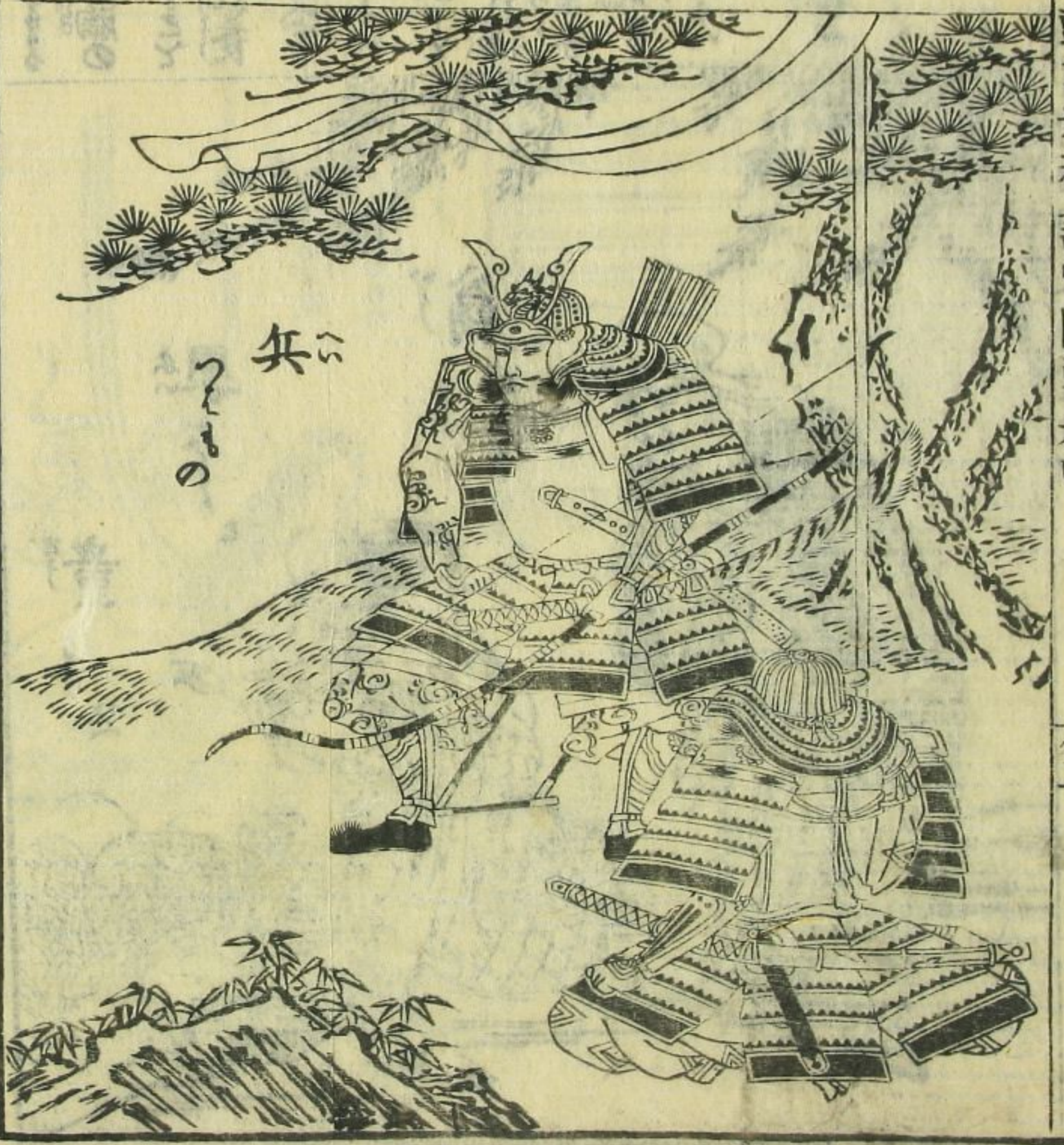
○農の厲山氏子
 わる農と
 名はく
 百穀とうゆる
 事な能と
 よくおと
 作らぬと農人
 とのよ又神農
 五穀と植
 う事と人
 まゆふとく
 農と名
 つらとも
 つらあり



農のつら

頁四十四

○兵の武具の
 惣名あり
 今甲冑と
 帯るる武士
 を兵と云
 ぬらせり
 我同一
 頭なる者
 將といは振者
 と士卒と
 又軍士
 軍兵など
 軍勢の士卒の
 惣名なり



兵のつら

兵の武具の

○工の百工
 乃惣名方を
 工匠ともいふ
 本工の大工なり
 漆工
 補 塗師也
 其外指物
 括包
 絹布織物
 金物
 是と職人と
 もいふ也



工
 たくも
 だく

○高のひびき人
 又のまじり
 居かゝる賣
 賈といひし
 うら高
 高と書べ
 高といひ
 わやまのなり
 高賈通用
 人乃事あり
 販といひ
 賣事
 かん



賈

現銀かゝるは

呉服物太物類

高
 わ

貞書譜補川蒙圖彙卷五

貞書譜補川蒙圖彙卷五

○醫者の病と治
 とうふの酒気
 ろくく薬と製
 とうくく酒の字
 に書と有和約
 けいふの和氣
 丹氣とく入医家
 わり信人なり
 ○トイト並なり
 トハ赴あり表
 者の心ハ赴あり
 病と物と
 うんとト物と
 又著とそりて
 うらふ



○膳夫の膳部
 ともつらあり
 今つら
 料理人なり
 庖丁といふ人
 糺牛と
 解事候なり
 今その名と
 つら
 又その名と
 又膳夫の名
 庖丁といふ
 あり



頂上膳部三才圖會

○祝の業に賛
 詞とつるさ
 者かろとわ
 非あそのろ
 ぢわがそ非
 かり又非
 ともひのひ
 稱宜ともひ
 ○巫の女の非
 つもりの足
 巫へ非とよ
 志しりのあり
 ともひを掩
 に非
 かん



○畫工の繪師
 唐ふの名
 画のまこのり
 のそつるにや
 の日奉
 巨勢の金
 古法眼元信
 雲舟かどじ
 の名画あり中
 右の永徳探
 考のありあり
 のもどもこれ
 畠を土佐家
 禁裏のい給
 あり



巫の女

畫工

○僧へ浮圖乃
 教に去る者
 かなし沙弥沙
 門者比丘苾
 芻もつゝあり
 又僧正僧都工
 人和尚長老を
 僧官あり圖師
 大師号あり
 ○尼女僧なを
 比丘尼あり佛の
 四部の才子あり
 尼姑もつゝ
 在家門ふもて
 僧官異あり



○鍛の磨あり
 推鍊なる
 金冶活とる
 少く鉄と
 鍛のあり
 鍛治とつゝ
 鍛治と字
 似るもつゝ
 にひつゝ
 わやゆり
 鍛治といふ
 ふうか
 とつゝ



鍛冶師の業

佛書地持論圖卷四

七

○陶家の土あく
 茶碗鉢皿など
 つつものあつた陶
 治もつた瓦六瓦
 どのくー多り舞
 何漢ふを人の化
 くらをとりつらあ
 まいしあくの舞と
 んめとらら
 ○治の鑄匠も
 爐匠もつ鍋釜
 火鉢其外金さ
 具かたりのあり
 唐の虫をとい
 りのつららし
 くら



陶家

土のつぎ

治の匠

○鬼の死しく
 肉骨全ふ飯し
 血の水ふ飯し視
 氣の天ふ飯をそ
 の陰氣をさそ
 存して依らら
 初めつらゆふ
 鬼とかな
 ○鬼の遷り死
 行してこのあ
 かしこのあふ
 うのふはふと
 つく唐にわき
 五和朝ふも
 の仙人とそ



鬼

仙

仙傳集卷之三

陶家土あく

○佛ぶつの西方さいほうの

聖人せいじんかた

如来にょらいもつ

佛ぶつハ人ひとハ弗ふ

とし凡人びんぱんハ

わさささハ

佛ぶつハ菩薩ぼさつ

かたハ菩薩ぼさつハ

佛ぶつハ菩薩ぼさつ

とし凡人びんぱんハ

わさささハ

あささ

薩さつ
やまら

佛ぶつ
やまら



○樂がくハ八音はつおんト

あささ

奏そうトハあり

樂人がくじんトハ

黄帝わうていノトハ

伶倫れいりんトハ者もの

樂がくトハ

伶人れいじんトハ

樂がくハ琵琶びばハ

琴ことトハ

カトハ

あさ

樂がく
官くわん

え

人ひとハ伶れい



○洗匠ハ屋敷や
 郷屋茶洗を
 どのみか
 ○登婦ハ登婦
 ひくく
 女死して
 登婦と
 ひとあ
 産の素は
 きくを
 えんく
 やい
 んは



頁書...

能優
 能優ハ雜戲
 あり
 狂言
 まぐひ
 猿樂の
 遠ひ
 業盛馬の
 み
 ん



頁書...

機女はたなより

○機女はたなのひらに

よの兵服へいふく綾織あやおりと

るる二分にぶん

女むすめさうらう

とらうらうめ

あくまり

しとくや上機かみの

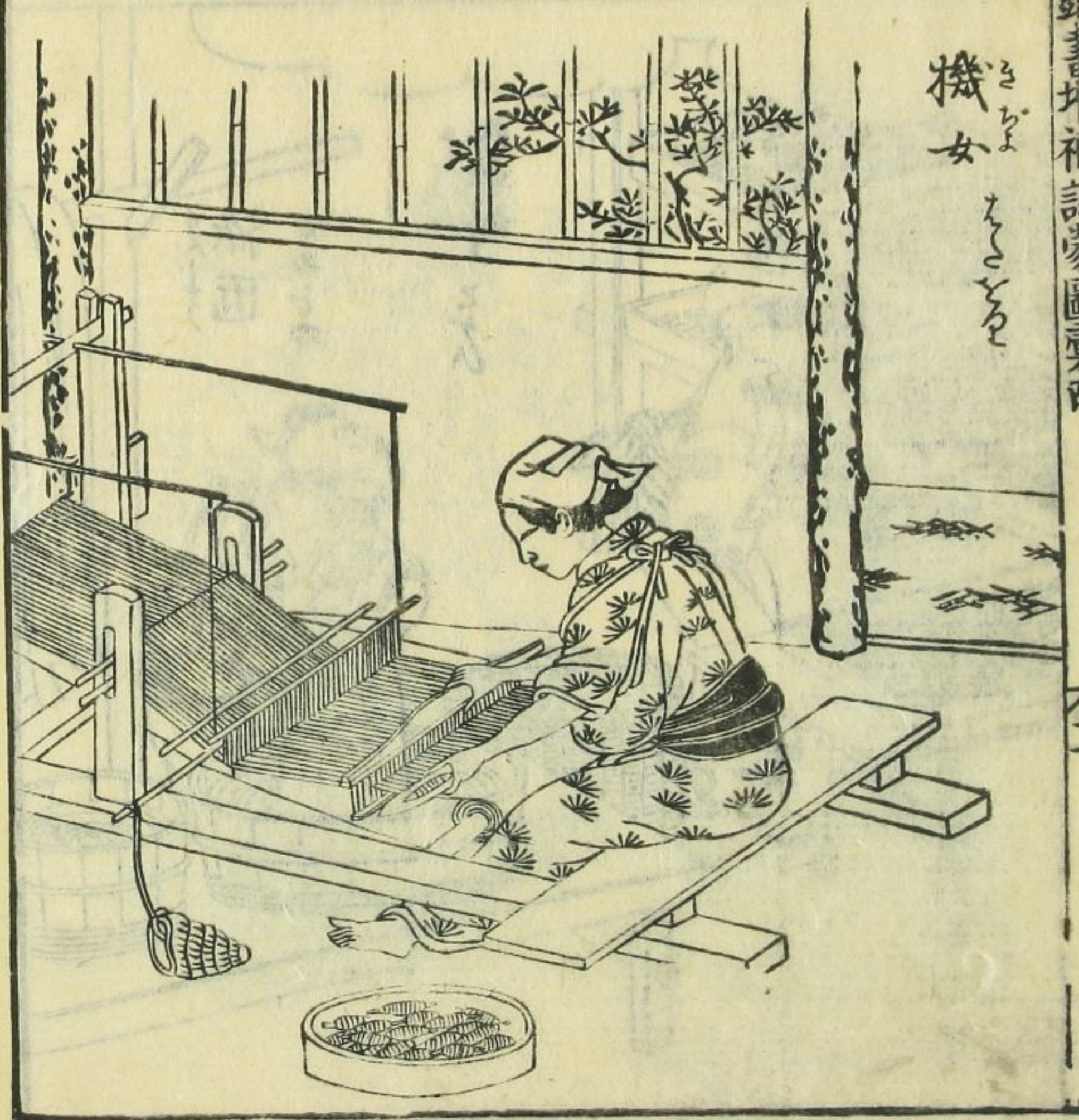
糸の織おりわと

をる下機かみの

布ぬい本もと綿わた

年としとる

機女はたなとらうらう



○矢人やじんの矢や他たあり
矢やの唐から中ちゆうの年とし車くるま重おもき
ひの船ふね王おう姫ひめひの唐から
遊あそびと人ひと始はじまりあり
和わ知ちの神かみ代しろの姫ひめと
○弓人ゆみんの弓ゆみ削け削け也なり
弓ゆみの危あや儀ぎ氏うぢより始はじまり
又また黄わう帝てい先せん舞まより
始はじまり又また黄わう帝てい此こゝに
揮ひと人ひと始はじまりあり
日本にっぽんはての神かみ代しろは始はじまり
○西人せいじんの鏡かがみのくち
鏡かがみの貴き心こゝろ始はじまりあり
又また黄わう帝ていの財さい女にょ
始はじまりあり又また黄わう帝ていの財さい女にょ
日本にっぽんの神かみ代しろは始はじまり

矢人やじんヤじん

弓人ゆみんゆみん

西人せいじんせいじん



○硯の黄帝王坂
 収て始と遠のみ
 とも硯と墨池と
 ○銀匠の白く
 と刀のふり目
 費入鐵者のさく
 人あり
 ○玉人玉と琢磨
 ともりのめり
 つまらぬと玉と
 海より出ると珠と
 伊井諾る
 の清とさけり
 しのり是と揚
 津の丸櫛と
 人あり

○烏帽子折の系
 都室町三条に
 わつと烏帽子の立
 烏帽子は是の位
 の着しは物
 風お利お打お
 右折小結荒目
 あり
 ○紺匠の今又
 表具師の
 事なり
 表補とも表紺
 紙も同
 ト



頂書曾補別表圖景四

○牙婆ハダは今いまの
 あひかり夜
 ねとさむいりく
 うらとふとふり
 かり
 ○筆工ハシの筆ハシ造つくり
 筆ハシいりらうに
 て蒙かぶ帖ていといふ人
 けりといふめい
 ○薦僧せんそうの林はやし九く論ろんと
 もいふ梵ぼん論ろん字じ漢かん
 宗そうともいふ又また暮くれ
 露ろとも書かきあり人
 八はちとふれ諸しよ玉ぎよと
 けりといふ



○傘工かさの雨あめ傘かさ日ひ
 傘挑かさ灯とうといふ
 さく人ひとあり
 ○皮匠かわの今いまの
 袋かぶ屋やかといふ
 又また切き付つ屋やといふ
 皮かわさくといふ人
 ともいふ
 ○針磨はりの京きやう姉あね
 小路こうじの名な物ものといふ
 今いまの三さん條じやう寺じ町まちの
 名なに多おほくあり
 すといふ者もの本ほん場ば
 といふ針はりといふ
 賣うりといふ人ひとあり



京都府神楽坂區

○石工の石と切て
 石垣石燈籠
 橋石塔など
 ありありあり
 ありありあり
 人ともいふ
 蓋とりくも
 ありありあり
 の巧者今
 た宮あり
 とも泥二
 匠ともい
 巧い巧い
 電のあ
 とりのも



巧者

石工

相撲使
 の相撲は乃見
 宿称と
 搬速と
 の二人
 角抵と云
 脅力と
 争ふ



相撲使

頭等増補別巻

頭等増補別巻

○侏儒の心は短
 き人といふ今つゝ
 一寸の短は短
 人といふ
 ○蛇背の心は
 医書あつゝ蛇背
 との背の心は
 と素蛇といふ
 にいふゆゑに
 人と蛇背といふ
 ○免唇の缺唇
 免缺といふ
 赤子の心は
 の外科小切な
 るを成人と
 するぬのあり



○扇の心は
 あくは舞と
 つみまはけり
 日本はくは
 神功皇后の
 とら蝙蝠の羽
 とつてつり
 とつてつり
 京はくは
 堂と賞と
 ○漆匠の心は
 さいくは
 とつてつり
 塗師といふ



武書坤神言夢圖集

○釣叟のつり
 そらちかきか
 とつら右公卿
 巻子懐か
 女ごひあ
 日本小も林代
 一をわり
 一しかり
 ○樵まの薪と
 とがりのあり
 又いふ賊も
 けをふひのの
 かるる
 けをふひのの
 かるる



釣叟
 樵夫

○蟹人の海中
 にくく鮑貝
 昆布のつれ
 ぬごひ瓜
 りのあり
 海人とも書
 女の業なら
 又煙くむ女
 ものま
 りいげき海
 色あまご
 けさいごりふ
 ほどね
 かるる



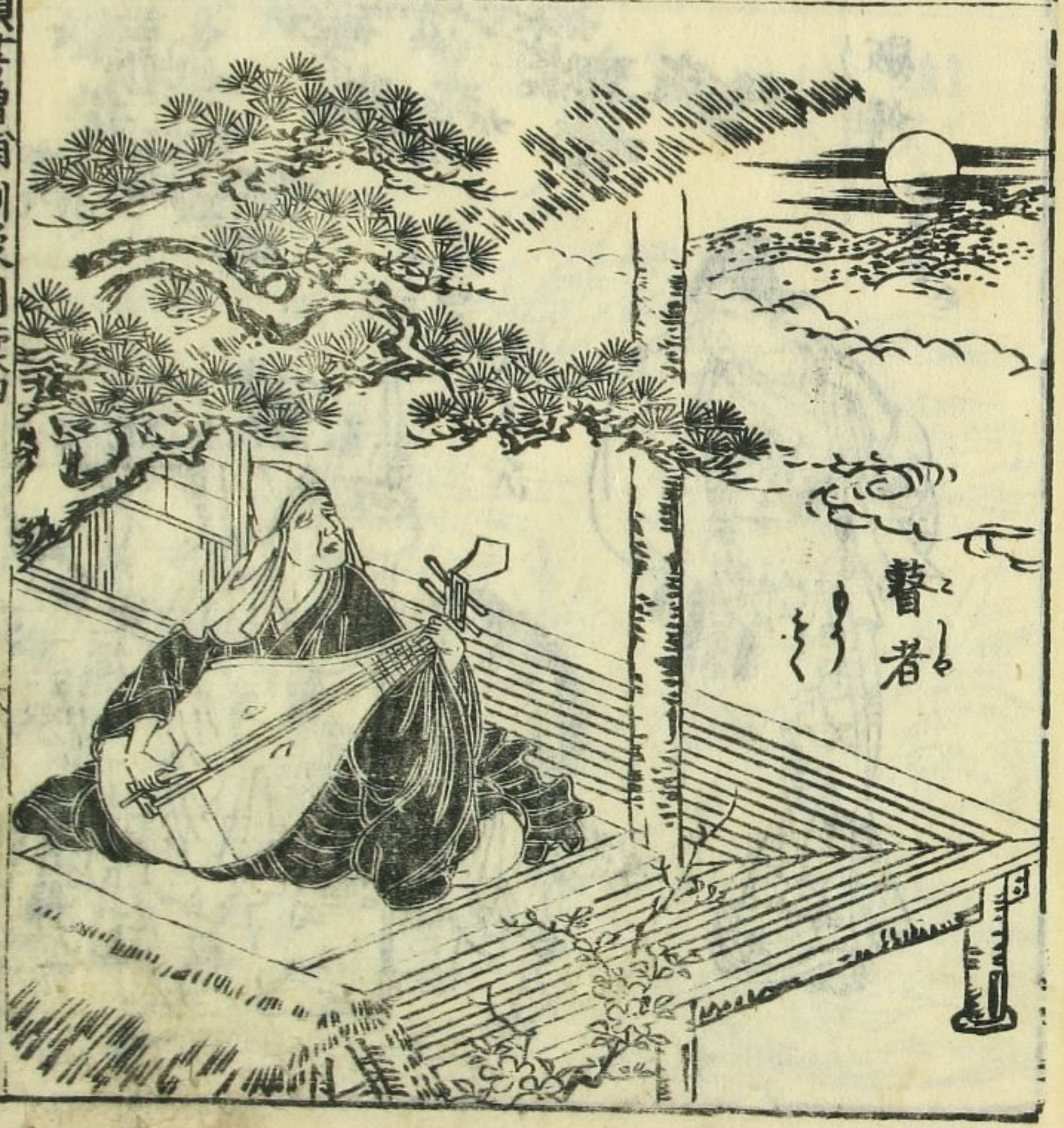
蟹人

豆書地神言家園口

○獵師ハ弓
 鉄炮とてゆく
 鳥獸とてゆく
 のあり
 鹿義氏乃世
 天下に獸多く
 四島とてゆく
 ぬふ故ふ人
 獵とてゆく人
 うつてゆく
 補
 冬の獵とてゆく
 海何ふて魚と
 とも魚獵とて



○瞽者ハ目ハ死
 のあり育
 目盲人とて
 論語小見
 者と瞽者とと
 補
 又琵琶法師も
 ついでに
 びんぼん平家
 とてゆく今ハ琴
 三弦とてゆく
 度ハもつてゆく
 按杖句當四分
 カとて位階
 ち



○漁父いそが
うらむらむらの
かなと煙人氏の
せふ天下の水
あや一故ふ人
にいりゆま
漁とものくを
今獵師と
いふあり
○舟子ハ今人
船頭多う海
と酒と舟よる
又空宇とも棹
おもつゝ人組
川舟よも紅ひと

漁父
舟子



頃書贈補別改圖景四

○販婦いひ
あひとると
女と入買漕
ともいふあり
都小すくす
郡ふあり
わりの
乞兒ハ乞巧人
なり又乞
舎とも
あり又非人
人非人介のみ
あひ

販婦
乞兒



頃書贈補別改圖景四

○鏡造鏡と
 つの神代ふ
 天の糠戸とつ
 神天照之神
 の神代と
 うつを踏て
 神つかりぬと
 鏡の姿善悪
 ともんもか
 の曲直は
 神しぬんぬ
 神たかしく
 神たかしく
 神たかしく



西遊記 卷之四 天竺 唐 西遊記 卷之四 天竺 唐

○牧童の廣野
 山と牛馬
 に牧とる
 野かり牧童
 遍指杏花
 村と詩ふ
 も他より牛飼
 も他より必
 も他より必
 笛吹吹
 久く牧笛と
 久く詩小牧童寒
 笛倚牛吹
 つもを私
 比姿
 かり



西遊記 卷之四 天竺 唐

又關王もい
 蔣給師と
 りも此類の
 のかを
 〇 舟人の渡
 守り
 大河小川と
 舟にこむ
 ふのきしん
 そものあり
 大河中
 舟にこむ
 性来の人の
 たもの
 あらかり

須書増補別家圖景四



〇 娼婦の倡優と
 て女の樂と羨する
 りの多し娼の候
 かなと倡と書べ
 又倡妓もいへど
 是むの事は
 今絶てりや敢
 て聞ふと中比白
 拍子とつゝあり
 今つゝ遊女舞子
 かののたあらん
 傾城又傾國など
 つゝのい別あめ
 かしんひりり
 のをいりて國
 及びあり

須書増補別家圖景四



○傀儡師の
 人形まじり
 の事あり
 てくまの川と
 りんげ路書
 どのへあま
 毎年正月
 近半絶てこの
 のかへし
 田楽法師と
 ついでのあり
 うへいよ
 名をうと
 まり



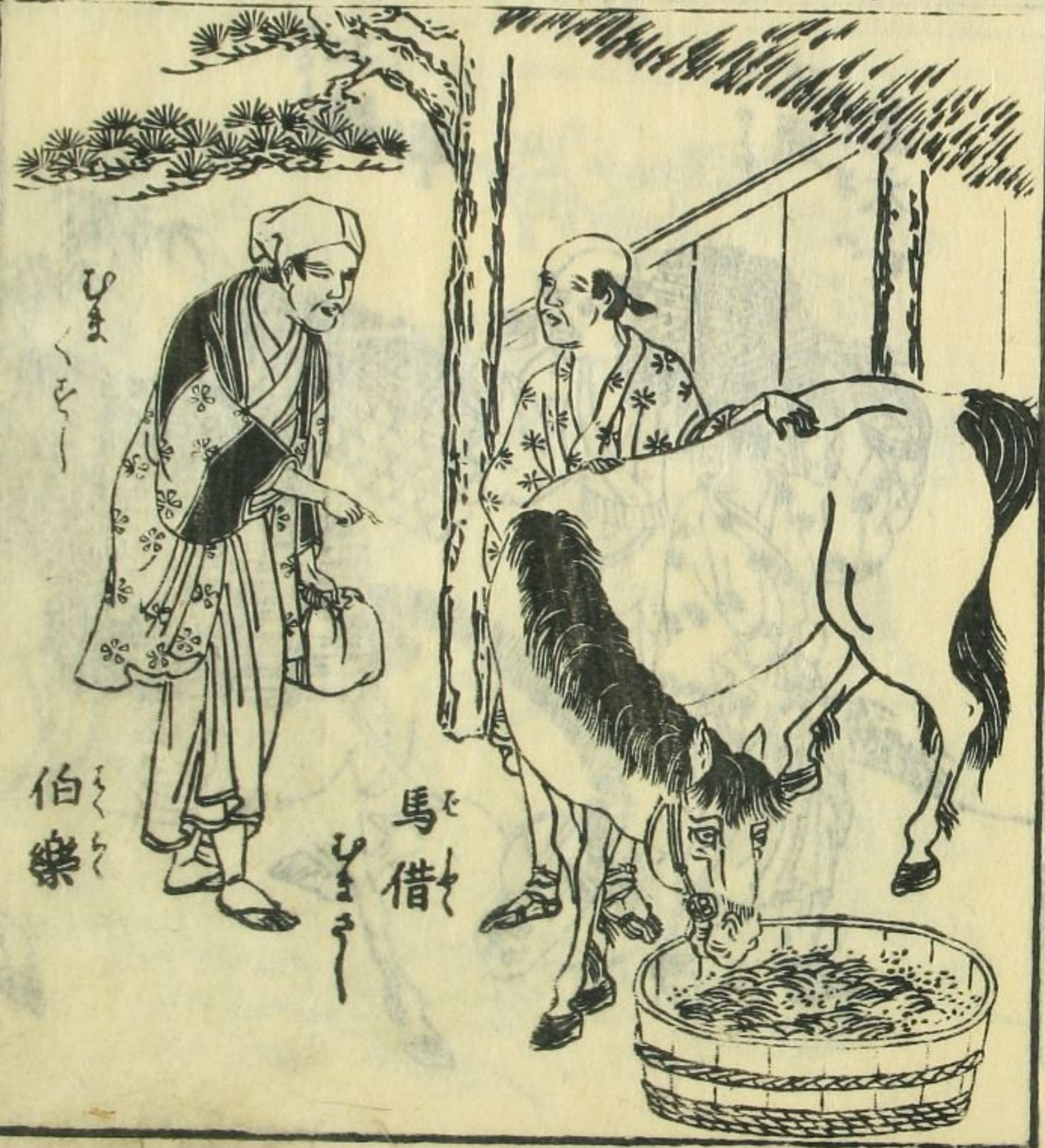
傀儡師
 てくまの

○駕輿丁の
 駕輿の
 事あり
 酒の
 藤二と流酌
 て大なる男
 あり
 流酌と
 浪人との傾
 こまきて流
 浪人
 今の人
 書いあま
 かな

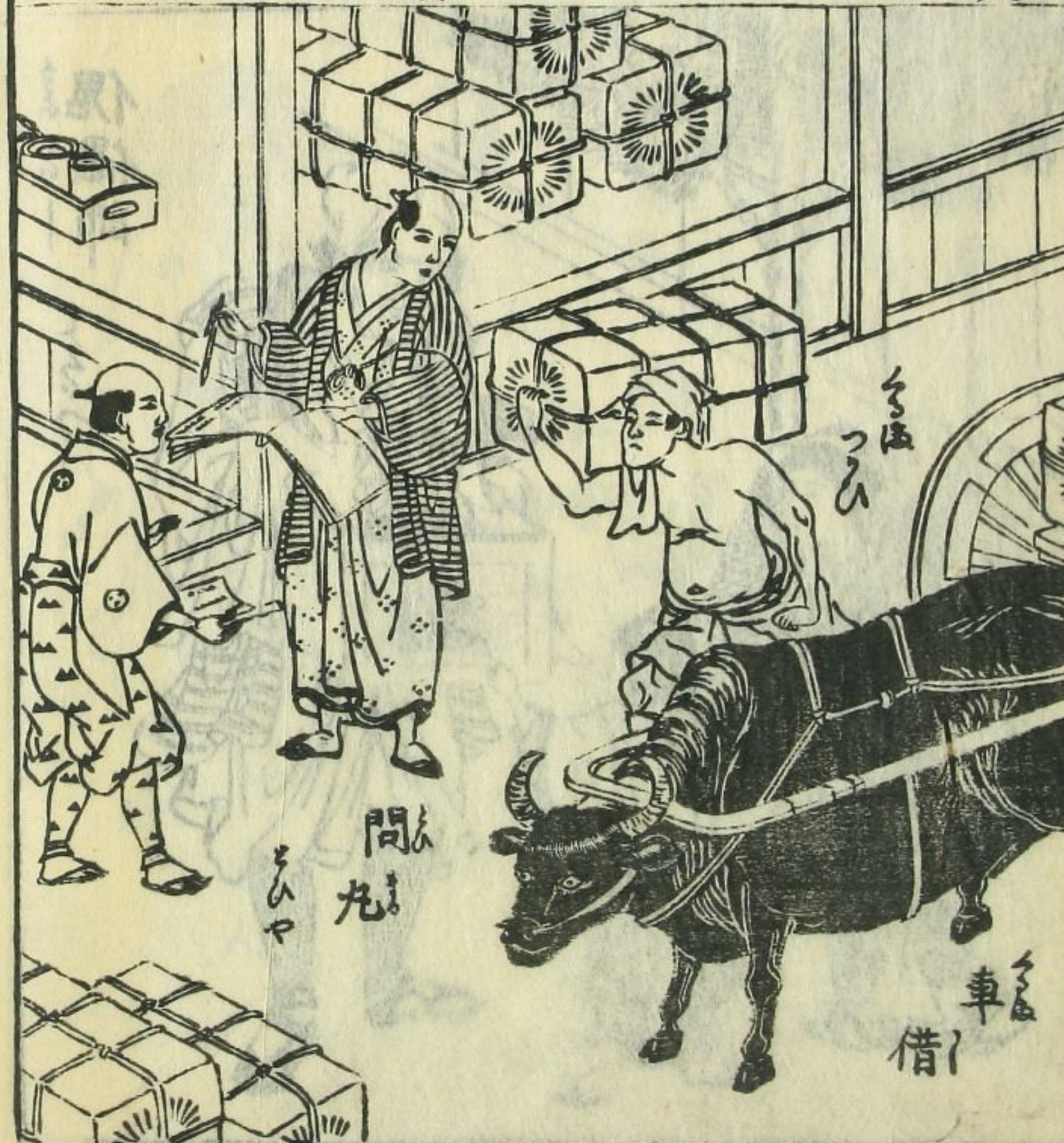


浪人

○馬借の馬奴
 又ハ馬口旁とも
 ワハ大津坂本の
 馬借と庭訓に
 わり今いささ
 とる借といふ
 る口旁といふ
 別ふわりて井
 の意買れせと
 とも者あり
 ○伯樂ハ馬の病
 とてまらちと人
 瓜伯樂といひ
 しい京室町よ
 けふふや室町の
 伯樂と庭訓に



○車借の車つひ
 の事多り多相
 川ふあらし庭訓
 にふらう今のさ
 其外あしにわ
 天子の車つひ
 御者とも徒御
 も舎人とも
 ○問丸ハ今の同
 屋の事あり香
 乃相場毎日常
 あらざる宿あり
 又道中して問丸
 とのいなる如
 少とあり



御言坊 神言家 園集 四

おんくりに何
 てせよ
 のうめ賣
 一を始
 そのわら八
 又の雲が細
 雄の梅が細
 同く女本
 とわらあ
 ○屠者の牛馬の
 肉と屠割の
 あり今
 穢多
 又屠割
 つら



屠者
 牛馬
 肉と屠割

○土器の京
 西山嵯我
 又北山畑枝
 下深草
 せり庭訓
 にも差我
 ○大原の黒木女
 京北山大原
 女黒木
 きて系に出
 わらあ
 び平れ惟盛
 の妻河波の内
 平家亡びて後



土器師
 大原
 黒木女

○中國中華も漢
 とも唐ともいふをたは
 清と明といひて
 鞞ふとていふ今へ大
 清といふもさなり
 ○朝鮮國はいつい三
 韓といふ三國なり新羅
 百濟高麗といひしが
 今一國とある日本小
 毛といふも
 ○琉球國中山國と名
 つく日本にあつては男
 羽といふもさなり冠
 珠玉といふもさなり百羅
 とりて帽といふも
 毛といふも



○天竺の仏教といふ
 大國の大熱國
 かりて國の小聖水の
 風濤とや
 商人琉璃の壺
 水といふもさなり
 ○蒙古鞞鞞の一種
 日本攻め
 神風吹破らむと
 かり是と蒙古國
 裏といふなり
 ○肅慎の女直とも女
 真ともいふ國人
 道とゆふ
 鳥のさぶさぶといふ
 てのいふもさなり



須書曾補則蒙圖景四

廿五

頭書城神詩蒙圖景四

廿六

占城のちんえん
 安南に近
 き國を大象
 多し玉小
 公事 詔新の者
 わりて 狸非分明
 かなは 鯨ふあふ
 科あつもの 鯨と
 食食とらう
 安南國の交趾
 とも 東京とも云
 男子の 盗とこの
 女の 淫とこの心
 をめとらふ 媒は
 うらうの 合國
 に肉桂 かり 他國

桂と上品と
 選羅の國 小海
 濱わが 男子い
 ちかたれう 湯瓜
 さく 甘波 邪とも
 つい 國の 漆を
 あせく 日本に ちや
 むらとつ あり
 東番のたご
 ともつ たいこん 國
 ともいふ 安南に ち
 きあひを ぼり
 補 國性 耶この
 國は ちんえん 國
 一かり 今唐に 移す

占城のちんえん
 安南に近
 き國を大象
 多し玉小
 公事 詔新の者
 わりて 狸非分明
 かなは 鯨ふあふ
 科あつもの 鯨と
 食食とらう
 安南國の交趾
 とも 東京とも云
 男子の 盗とこの
 女の 淫とこの心
 をめとらふ 媒は
 うらうの 合國
 に肉桂 かり 他國



○南蠻へ阿媽港
 人あり阿蘭陀も
 い類カラスをて
 南の嶋國と云ん
 ばんとつ入其品類
 多くありて人物
 種々にまらまり
 西の多びと瓜西
 戒とつ入是もその
 數多くあり
 ○東夷の蝦夷人
 あり人物勇猛に
 ちて常小山野に
 少て獸と射たり
 又い海中の魚類
 多くて食を



惣として中國より
 東にあり島國は
 東夷といひ西は
 嶋國と西戎といひ
 南にあり瓜南蠻
 といひ北にあり瓜
 小狄といひ
 ○呂宋の島とて
 中國よりありて
 必多りて器とて
 製衣一箱とて
 ありて
 ○長脚ハ足多
 湖ありて
 事獸のて



貞徳書補神話地圖東四

○長辟月國の
東海の
あまぐらふま
國人もあまぐ
くそ地ふる
布衣とさる
長一丈三尺寸
又辟月かま
くふもわを
無臂國といふ
又臂ひまろ
あまほも
あり一臂國
とらふ
かり

長臂國



○崑崙崙の西南
の海中に嶋國と
その人物色々
まこと黒漆む
と一海底に在
自由依多とま
よくあつたふのち
くそ地ふる
よく異國の渡
海の船ふらふた
此崑崙崙とち
くろくといふ色
黒さものと崑崙
坊とらふま

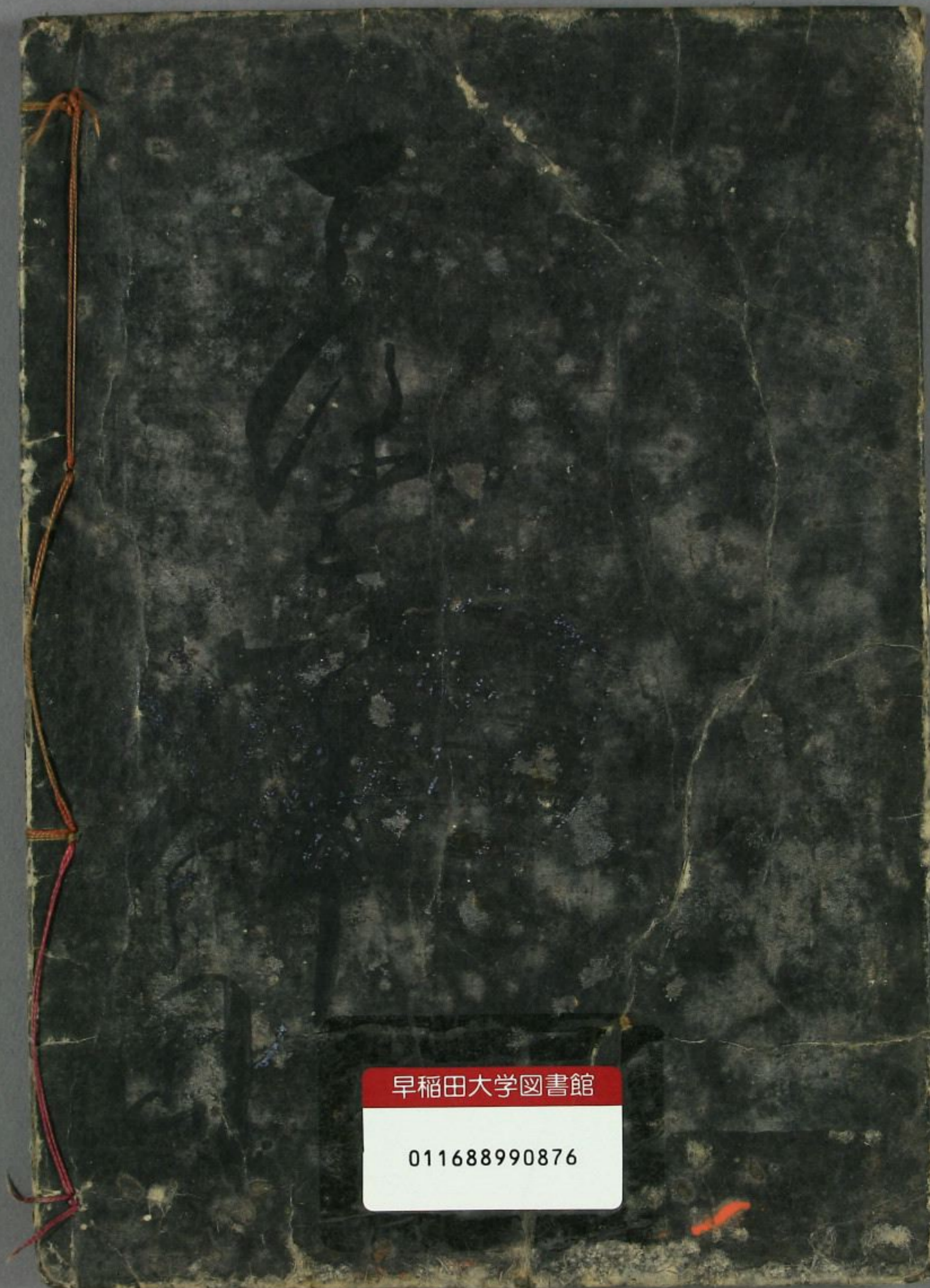
崑崙崙



○小人國此國東
 方にあり身の長
 九寸二尺五寸と
 もいひ國は鶴
 似たる鳥ありそ小
 人ともうそらふま
 おとれてひらひら
 さらけあまこつと
 たらゆくとそり
 ○長人國のひし明
 加の人難風小船と
 吹かざるとあま
 島にゆるる人の長
 一丈余ありそ水
 とあまこつとあり



小人國
 長人國



早稲田大学図書館

011688990876